

令和4年度「第九小学校家庭教育学級」活動報告

学級長 吉田 梨恵
学級主事 中村 聡美
(第九小学校)
学級主事 上原 稔久
(渡瀬公民館)

1 学級の紹介

「第九小学校家庭教育学級」は、館林市立第九小学校の1年生の保護者を対象としており、本年度の学級生は23人で、学級長1名、副学級長1名を役員として構成されている。

「心豊かな子どもの成長を目指して、共に育み高め合う仲間をつくる」をテーマに、コロナ禍における家庭での子育ての悩みや親子での協働体験等を支援することを目的とし、親子で取り組める講座中心とした活動を実施した。

2 活動内容

回	開催日	学習内容	講師等
1	令和4年 6月23日(木)	・開級式 ・校長先生の講座	第九小学校 校長 新島 邦彦
2	7月27日(水)	ポスター教室、美術鑑賞	群馬県立館林美術館 職員
3	9月20日(火)	給食センター施設見学	学校給食センター 職員
4	10月15日(土)	軽スポーツ体験「ペタンク」	スポーツ振興課 職員
5	11月13日(日)	カルピス工場見学	カルピスみらいのミ ュージアム 職員
6	12月17日(土)	レモングラスしめ縄づくり	新型コロナウイルス 感染症のため中止
7	令和5年 1月21日(土)	「子育てに正解はある！～子育てが 楽しくなる3つの秘訣～」講演会	(株)打つ手は無限 代表取締役 鈴木 稔
8	3月19日(日)	・4Dシアター鑑賞 ・閉級式	つつじ映像学習館 職員



3 おすすめプログラム（現地学習：施設見学）

親子参加として、市内の施設に行き、見学や体験をとおして学ぶ現地学習プログラム。施設自体は知ってはいるが、なかなか行く機会がない施設や家庭教育学級等の事業でなければ見学できない施設などを選定した。実際に見て、体験することで、市内の施設についてよく知り、学び、結果として、館林市を知り、館林の魅力を感じ、館林市を好きになるなど郷土愛を高める一助となる。学級生のなかには、本市外出身の方もいるため、市内の施設をよく知らない方も多く、子どもと一緒に新鮮な気持ちで体験することも親子にとってとてもよい時間となる。今年度は、3か所の施設見学を行った。

①学校給食センター（第3回）

普段子供たちが食べている給食がどのように作られているのか実際に見て、給食の安全性・バランスなど栄養士の方々の話を聞き、給食だけでなく家庭の食事についても質問などとおして食育を学習。



②カルピスみらいのミュージアム（第5回）

地元（渡瀬地区）の工場（アサヒ飲料群馬工場株）内の、「カルピスみらいのミュージアム」の見学ツアーに参加して、地元企業について学習。



③つつじ映像館（第8回）

4Dシアター鑑賞や見学をとおして、日本遺産に認定された「里沼」について学習。



4 活動成果

新型コロナウイルスの流行により、以前のように家族で旅行したり、出掛けたりすることが難しくなり、家族で家庭外での経験が少なくなっている課題に対して、親子参加の講座を多く実施することで、そういった経験の場を提供することができた。

また、コロナや育成会の休会等により、地域のイベントが中止や減少していることから、地元の方々同士の交流も少なくなってきたので、親子同士で協働するような講座を実施することで、学校行事以外で、地域交流の場の一つになった。

そして、テーマとしていた子育ての相談や情報共有などを気兼ねなくできる学級生同士のネットワークの構築を促す一助になった。

5 今後の取り組み

コロナ禍により、以前に加えて新型コロナウイルスの影響により家庭における悩みや問題が一層増えてきていることから、いかにして社会教育の観点から援助・解決していけるかが今後大きなポイントの一つとなってきた。子育て世代が抱えている問題や求めているものなど、ニーズを把握し、その一助となるような講座等の提供が必要となる。専門的で取組みにくいものであっても、触れやすい環境づくりや内容を工夫することで、多くの方に参加してもらい、家庭の教育力が向上する講演や講座を取り入れていく。

また、相談したり、情報共有したり、世間話したりでき、またお互いを高め合えるような仲間づくりを支援し、一人で悩むことのない環境づくりがとても大切であるため、学級生のための講座だけでなく、親子で協働する親子参加の講座を積極的に取り入れることが望ましいと考える。

最後に、第九小学校家庭教育学級では、1年生の児童の保護者を対象としているところから、多くの方が新米の小学生児童の保護者となるため、子育ての不安や疑問など数多く抱えている学級生も多々いると考えられるため、そのような学級生が安心して子育てできる環境づくりやサポートできるような内容の講座を取り入れていくことに重点を置いて、取り組んでいく。

